

# SERI NEWS RELEASE

平成 25 年 8 月 30 日

一般財団法人静岡経済研究所  
理事長 鈴木一雄  
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13  
アゴラ静岡 5 階  
TEL054-250-8750  
FAX054-250-8770

## 第 39 回

## 「静岡県版 景気ウォッチャー」調査(平成 25 年 7 月)

### ～景況感の改善続くも、回復テンポに一服感～

- 平成 25 年 7 月実施の「静岡県版 景気ウォッチャー」調査では、県内景気の「現状判断指数（方向性）」は 52.4 と、横ばいを示す「50」を 3 期連続で上回り、引き続き改善傾向が続いている。しかしながら、前回 4 月調査（58.3）比で $\Delta 5.9$ ポイント低下しており、回復テンポには一服感がみられる。
- また、2～3 カ月先の「先行き判断指数（方向性）」も 53.7 と、3 期連続の改善判断となったものの、前回 4 月調査（59.1）比で $\Delta 5.4$ ポイント低下した。景況感は引き続き改善基調にある中、原材料価格の高騰懸念や消費税引上げ前の特需の有無、世界遺産効果の地域差などが入り交じり、改善期待はやや鈍っている。

担当：植村泰大

## 景況感の改善続くも、回復テンポに一服感

平成25年7月調査では、**現状判断指数は52.4**と、横ばいを示す「50」を3期連続で上回り、引き続き改善傾向が続いている（図表1、2）。しかしながら、**前回調査（58.3）**と比べると**△5.9ポイント低下**しており、回復テンポには一服感がみられる。また、**先行き判断指数も53.7**と、3期連続の改善判断となったものの、**前回調査（59.1）**からは**△5.4ポイント低下**し、先行きの景気回復への期待感はやや鈍っている（図表1、3）。

現状判断指数が前回より低下した主な要因として、小売業で店舗間競争の激化や消費者の節約志向の継続により景況感が悪化に転じ、家計消費関連全体では前回比△8.0ポイント低下したことが挙げられる。一方、先行き判断指数が低下した要因としては、コスト面の上昇懸念などから事業所向けビジネス関連が同△6.8ポイント、製造業における新規求人数の減少を反映して雇用関連が同△12.5ポイント低下したことが挙げられる。

### 調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的にしている。
- (2) 調査対象：家計消費、事業所向けビジネス、雇用など、経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者。

分野	ウォッチャーの代表的な業種
家計消費関連（n=77）	
小売関連（n=30）	百貨店、スーパー、乗用車販売、書籍販売 など
飲食関連（n=10）	飲食店、割烹、外食チェーン など
サービス関連（n=28）	観光ホテル、旅行代理店、カルチャーセンター など
住宅関連（n=9）	不動産販売、住宅販売、住宅展示場 など
事業所向けビジネス関連（n=17）	印刷、広告代理店、運輸、司法書士、情報サービス など
雇用関連（n=10）	人材派遣、職業紹介、求人情報誌 など

- (3) 調査方法：各企業の担当者に対するアンケート調査
- (4) 調査事項：①現在の景気の水準について  
②景気の現状に対する判断（3カ月前との比較）  
③その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など（自由回答）  
④景気の先行きに対する判断（2～3カ月前の予想）
- (5) 調査時点：平成25年7月下旬
- (6) 回答状況：調査対象109名のうち、有効回答を寄せていただいた方は104名で、有効回答率は95.4%である。

\* 景気判断指数とは、景気の現状や先行きに対する判断を点数化（下表）し、それらに各判断の構成比（%）を乗じて指数（D.I.）化したものである。これにより、判断指数（方向性）においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

評価	現在の景気 (水準判断)	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い
	現状判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
点数		+1	+0.75	+0.5	+0.25	0